

消化器病学

責任者・コーディネーター	消化器内科消化管分野 松本 主之 教授		
担当講座・学科(分野)	消化器内科消化管分野、消化器内科肝臓分野、外科学講座、歯学部口腔医学講座関連医学分野、緩和医療学科、放射線医学講座、病理診断学講座、小児科学講座		
担当教員	松本 主之 教授、滝川 康裕 教授、佐々木 章 教授、千葉 俊美 教授、寺島 雅典 客員教授、木村 祐輔 特任教授、中村 昌太郎 准教授、肥田 圭介 准教授、水野 大 准教授、大塚 幸喜 特任准教授、新田 浩幸 特任准教授、宮坂 昭生 特任准教授、加藤 健一 特任准教授、小穴 修平 講師、黒田 英克 講師、岩谷 岳 講師、上杉 憲幸 講師、木村 聡元 特任講師、梁井 俊一 助教、川崎 啓祐 助教、柿坂 啓介 助教、猪股 正秋 非常勤講師、遠藤 昌樹 非常勤講師、村上 晶彦 非常勤講師、川村 英伸 非常勤講師、大森 浩明 非常勤講師、池田 健一郎 非常勤講師、佐々木 美香 非常勤講師		
対象学年	3	区分・時間数	講義 60.0 時間
期間	通期		

・学習方針（講義概要等）

小児および成人における消化管、肝・胆・膵疾患の病因、病理・病態生理、症候、画像、臨床検査、診断・鑑別診断、内科的・外科的治療および予後などについて総合的かつ系統的に学習し、消化器病学全体の診断と治療に関する思考能力を学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

1. 小児消化器病学
 新生児（胎児）から思春期までに見られる消化器疾患について学ぶことで、各発育期（新生児、乳児、幼児、学童、思春期）に特有の疾患や成人と異なった特徴を有する疾患について、その原因、病態生理、症候、診断・鑑別診断、治療、合併症、予防法を理解する。
2. 小児消化器外科学
 小児の消化管、肝・胆・膵ならびに横隔膜・腹膜・腹壁などにおける外科的疾患について学ぶことで、病因、病態、治療方針、治療成績、予後を理解し説明できるようになる。
3. 成人消化器内科学、消化器外科学、消化器放射線学、分子診断病理学
 成人における消化器疾患について学ぶことで、疾患概念、病因、臨床徴候、臨床検査所見、画像所見、診断・鑑別診断および治療法（内科的、外科的）、予後を理解する。
 （ディプロマ・ポリシー：2, 3, 6, 7）

・到達目標 (SBO)

<p>1. 小児消化器病学</p> <p>(1) 正常新生児における消化器の発達生理を説明できる。</p> <p>(2) 小児にみられる消化器症状から鑑別診断を挙げることができる。</p> <p>(3) 小児期に特有な先天性疾患、後天性疾患について病態と病因を説明できる。</p> <p>2. 小児消化器外科学</p> <p>(1) 先天性食道閉鎖症、食道狭窄症、乳児肥厚性幽門狭窄症、新生児胃破裂、先天性腸閉鎖・狭窄症、腸回転異常症、腸管重複症、Hirschsprung 病、新生児壊死性腸炎、虫垂炎、直腸肛門奇形、腸重積症、胎便性腹膜炎などを説明できる。</p> <p>(2) Bochdalek 孔ヘルニア、食道裂孔ヘルニア、臍腸管遺残、尿膜管遺残、臍帯ヘルニア、腹壁破裂、臍ヘルニア、鼠径ヘルニアなどを説明できる。</p> <p>(3) 胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症、門脈圧亢進症、肝芽腫、脾腫などを説明できる。</p> <p>3. 成人消化器内科学・消化器外科学・消化器放射線学、分子診断病理学</p> <p>(1) 食道、胃、小腸・大腸の正常および異常病理組織・画像所見を説明できる。</p> <p>(2) 食道、胃、小腸・大腸疾患の病態生理、治療法および予後を説明できる。</p> <p>(3) 肝臓、胆道、膵臓の正常および異常病理組織・画像所見を説明できる。</p> <p>(4) 肝臓、胆道、膵臓疾患の病態生理、治療法および予後を説明できる。</p>
--

・講義日程

(矢) 西 103 1-C 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
6/1	木	1	消化器内科消化管分野	松本 主之 教授	消化器内科学総論
6/1	木	2	外科学講座	佐々木 章 教授	消化器外科学総論
6/8	木	1	病理診断学講座	上杉 憲幸 講師	消化管の基本構造と病理組織学、腫瘍総論
6/8	木	2	消化器内科消化管分野	猪股 正秋 非常勤講師	消化管内視鏡総論
6/15	木	1	放射線医学講座	加藤 健一 特任准教授	腹部画像診断の基礎
6/15	木	2	歯学部口腔医学講座基礎医学分野	千葉 俊美 教授	消化管の生理と機能性疾患 (IBS、FD)
6/22	木	1	消化器内科消化管分野	梁井 俊一 助教	食道悪性腫瘍の診断と治療

6/22	木	2	消化器内科消化管分野	遠藤 昌樹 非常勤講師	消化管の良性器質性疾患
6/29	木	1	外科学講座	肥田 圭介 准教授	外科的治療に必要な胃の局所解剖、胃切除後の合併症
6/29	木	2	外科学講座	岩谷 岳 講師	食道癌の外科治療
7/6	木	1	消化器内科消化管分野	中村 昌太郎 准教授	胃悪性腫瘍の診断と治療
7/6	木	2	外科学講座	寺島 雅典 客員教授	胃腫瘍の外科治療
9/28	木	1	外科学講座	佐々木 章 教授	外科治療に必要な食道の局所解剖、食道良性疾患の外科治療
9/28	木	2	消化器内科消化管分野	川崎 啓祐 助教	腫瘍性腸疾患の診断と治療（大腸癌、大腸ポリープ、消化管ポリポーシス）
10/5	木	1	消化器内科消化管分野	松本 主之 教授	炎症性腸疾患
10/5	木	2	消化器内科肝臓分野	滝川 康裕 教授	肝の構造と生理機能およびその評価法、肝障害の機序
10/12	木	1	外科学講座	大塚 幸喜 特任准教授	炎症性腸疾患の外科治療と肛門疾患
10/12	木	2	外科学講座	大塚 幸喜 特任准教授	外科的治療に必要な大腸の局所解剖、大腸癌の外科治療
10/19	木	1	消化器内科肝臓分野	柿坂 啓介 助教	急性肝炎、劇症肝炎
10/19	木	2	消化器内科肝臓分野	宮坂 昭生 特任准教授	ウイルス性慢性肝疾患
10/26	木	1	消化器内科肝臓分野	黒田 英克 講師	肝腫瘍の疫学・診断・治療
10/26	木	2	消化器内科肝臓分野	滝川 康裕 教授	アルコール性肝疾患、脂肪性肝疾患
11/2	木	1	消化器内科肝臓分野	滝川 康裕 教授	肝硬変の病因、病理、症候、診断と門脈圧亢進症
11/2	木	2	外科学講座	新田 浩幸 特任准教授	外科的治療に必要な肝の局所解剖、肝腫瘍の外科治療
11/9	木	1	消化器内科肝臓分野	村上 晶彦 非常勤講師	膵胆道疾患の主要症状と病態生理

11/9	木	2	消化器内科消化管分野	小穴 修平 講師	膵胆道疾患の診断と治療（膵癌、胆嚢癌、胆管癌）
11/16	木	1	消化器内科消化管分野	小穴 修平 講師	膵胆道疾患の診断と治療（急性慢性膵炎、嚢胞性膵疾患、先天性胆道拡張症、膵胆管合流異常症）
11/16	木	2	外科学講座	川村 英伸 非常勤講師	外科的治療に必要な膵胆道の局所解剖、膵胆道の外科治療
11/30	木	1	小児科学講座	佐々木 美香 非常勤講師	小児消化器疾患
11/30	木	2	外科学講座	水野 大 准教授	小児消化器外科疾患
12/7	木	1	消化器内科消化管分野	松本 主之 教授	腸管の炎症性疾患と感染症
12/7	木	2	放射線医学講座	加藤 健一 特任准教授	腹部画像診断（各論）
12/19	火	1	消化器内科肝臓分野	宮坂 昭生 特任准教授	肝炎ウイルス関連検査法
12/19	火	2	外科学講座	池田 健一郎 非常勤講師	外科侵襲学・周術期の栄養管理
12/21	木	1	外科学講座	大森 浩明 非常勤講師	腹部救急疾患
12/21	木	2	消化器内科肝臓分野	滝川 康裕 教授	自己免疫性肝疾患・薬物性肝障害
12/26	火	1	外科学講座	木村 聡元 特任講師	消化器癌と化学療法
12/26	火	2	緩和医療学科	木村 祐輔 特任教授	緩和ケア
12/28	木	1	小児科学講座	佐々木 美香 非常勤講師	小児消化器疾患
12/28	木	2	外科学講座	水野 大 准教授	小児消化器外科疾患

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
推	標準外科学 第14版	北野正剛・田邊 稔・池田徳彦 編集	医学書院	2016
推	小児科学・新生児学テキスト 全面改訂第5版	飯沼一字ほか編	診断と治療社	2007
推	標準小児外科学 7版	福澤正洋、高松英夫 監修、上野滋 編集	医学書院	2017
推	ステップアップ 内視鏡外科手術	佐々木章 編集	医学書院	2012
推	内科学第11版	矢崎義雄総編集	朝倉書店	2017
参	消化器内視鏡ガイドライン第3版	日本消化器内視鏡学会 監修	医学書院	2006

・成績評価方法

本試験により評価し、その平均が60点以上の者を合格とする。

・特記事項・その他

1. 小児消化器病学
消化管の発生と発達から、疾患の病態生理を講義する。また、小児消化器疾患の“common diseases”を中心にその基本的知識について、その要点を記載したプリント（A4）を用いて解説する。

2. 小児消化器外科学
スライド、プリントなどを用いて小児消化器外科疾患の病態生理、診断、治療などを中心に解説する。

3. 成人消化器内科学・消化器外科学・消化器放射線学、分子診断病理学
スライド、プリントなどを用いて消化器疾患の病態生理、診断、治療などを中心として講義する。

シラバスに記載されている内容及び各回に配布・提示される教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			